吹奏楽の指導

～吹奏楽の楽しさと音楽の厳しさを子ども達へ～

２０１４．５．２０改訂

岡山　元行

はじめに

吹奏楽のご指導をされている先生方に敬意を表したいと思っております。文化に触れる機会が少なく、文化活動に理解が乏しいことや、学校の中での文化部の位置づけや予算的なこと等様々な状況の中で、ご奮闘されておられることと察しております。その様々な状況の中でも、尚、子ども達と悪戦苦闘されている指導者の方々に、少しでも役に立てばと起稿した次第です。

私はプロの奏者ではありません。アマチュアで下手なホルン奏者です。一応学校の教師でしたが、音楽科の教師ではありません。楽譜もあまり読めません。音感は皆無です。ただ、若い時から吹奏楽の虜になって、一般吹奏楽団を結成し、近隣の中学校、高等学校吹奏楽部への舞台の提供、アンサンブルフェスティバルの企画等を行ってきました。

私は、偶然にも教職の半ばで中学校の吹奏楽部を指導することになり、その後、高校の指導などの経験をさせていただきました。私が指導し始めた頃の中学校吹奏楽部は、とても「吹奏楽部」いや「部活」らしいものでは有りませんでした。机の上に座って「音」らしきものを吹いていたり、譜面台を使っての練習はほとんどしたことがない、音楽室のあちらこちらで好き寄りの生徒が練習していたり(木管とか金管とか､パートとか関係なし)、ティンパニーは生徒の昼食の台だったりしてコンクールの演奏中に櫛で髪をといでいたりでした。高校でも、はじめは日々の練習も集まりが悪くサークルのようなバンドでしたが、子ども達に「吹奏楽の楽しさと音楽の厳しさ」を伝えたくて楽しんできました。ほとんど小編成で、いくらか大編成の指導経験も持っていますが、少しだけ県代表の経験があります。地域の吹奏楽の発展を願って、縁の下の力持ち的存在として、少しは地域に貢献し続けています。それらの経験から、以下のような項目を立てて、特に、学校の悩める吹奏楽の指導者の方々の為に、私のような物でもできることがあった訳ですから、私より音楽的に優秀な方々ばかりだと思いますので、勇気を持ってご奮闘していただければと思い、私の経験から、吹奏楽の指導としてまとめてみました。参考にされることがあれば幸いです。

Ⅰ　指導者としての心がけ
Ⅱ　吹奏楽指導の基本
Ⅲ　練習形態と練習方法のポイント
Ⅳ　吹奏楽祭・コンクール等演奏に向けて
Ⅴ　必要経費と予算獲得に関して
Ⅵ　各楽器の練習と手入れ
Ⅶ　まとめにかえて

Ⅰ　指導者としての心がけ

○　吹奏楽部の指導は、生徒指導７割、音楽技術２割、音楽感性１割のようです。
○　吹奏楽に対する理解と熱意、謙虚に指導者として学ぶ姿勢が大切です。
○　他団体の演奏を聞き、見てよい所を取入れる。（音質、表現などの音楽そのものだ

けでなく、配置や姿勢等含む）

○　日頃の練習では、真面目な音楽にひたむきな生徒の層に合わせる。

○　おおむね生徒の層は、①音楽が好きで音楽性・技術を持っている生徒、②運動が苦手で文化部に、しかし態度などは真面目な生徒、③運動が苦手というより、えらい事が嫌いで楽だと思って入ってきた生徒だと思います。ところで、③の生徒が主導権を持つ学校では指導者は疲れ、多くの生徒も面白くありません。これらの生徒に迎合する指導者では、部は基本的に崩壊します。③の生徒には退部させる覚悟で徹底的に指導してください。（その場合、教師の権力を見せつけることも必要です。）しかし、本来「切り捨てる」姿勢ではなく、そのような生徒にも「吹奏楽することの楽しさ」を目覚させていただきたい。（私は、ほとんど切り捨てることなく、そのように悪戦苦闘をしてきたつもりです。誰も切り捨てないことは、みんなが上達する道です。）なかには、音楽性豊かな生徒で指導者に反発する生徒がいますが、指導者はその生徒の音楽性を認めることから指導を初めてください。指導者も謙虚に共に学ぶ姿勢で、そのような生徒を全体の演奏に活用することは、より優れた演奏となりコンクールで県代表も夢ではありません。指導者の実質の伴わないプライドは生徒に受入れられにくく指導の壁になる事が多いでしょう。

○　指導者の許容範囲であらゆる場に積極的に参加させてあげてください。

　初出場での参加は、生徒の意見を聞くふりをして、指導者の考え方に誘導してください。生徒の意見の尊重だけでは進歩がありません。経験は少しの押しつけも必要です。「かなん」と言う生徒でも本当のところ指導者の指示を待っていることが多いものです。また、クリニックなどは、「上手と思う人は参加する必要がありませんが、下手な人は是非参加してください」と呼びかけてください。また、信頼できる生徒への個別に参加を促し、全体に広めることも手法です。

○　指導者が権威をもてるまで、出来るだけ練習も時間も師弟同行で行うとよいでしょう。

○　生徒に依頼されることについて。

　出来ないものは「出来ない」とはっきり伝えることも心がけましょう。時間がかかりそうな事は余裕を考えて返答する。「わかった」と答えたことは期日前に必ずやり遂げる。（備品購入や楽譜の手配なども）その場しのぎの安易な返答で、いい加減な対応は不信感を持たれ、音楽指導でもマイナスになります。

○　指導者の吹奏楽の経験に関して

①音楽技術、音楽性もあり、吹奏楽を深く経験している。

②音楽技術、音楽性もあるが吹奏楽の経験に乏しい。

③音楽技術や音楽性は無いが吹奏楽の経験がある。

④音楽技術や音楽性も無く、吹奏楽の経験も無い。

　①の指導者は生徒の意欲を高める指導を研究してください。②の指導者は、他校の先生や地域の吹奏楽経験者に教えてもらい､生徒への指導にも協力を求めてください。そして、生徒の音楽性に期待する指導を心がけ、先輩から後輩へという協力関係を築いてください。③の指導者は自己のできる事とできない事を分け、生徒の音楽性に期待しながら、指導者が出来なくても生徒の技術や音楽性を引出す練習法に努力してく

ださい。（演奏家と指導者との違い）④の指導者は生徒管理・部の学校での位置付けや費用面等に責任を持ち、音楽指導は他に任せてください。（勿論、興味を持ち、研鑽に励み、生徒と共にするつもりなら、音楽面での指導者になり得ます。）

○　指導者と生徒との信頼関係、尊敬される関係が重要です。言葉かけや誉める指導に心がけてください。指導者は常に内省を心がけてください。

Ⅱ　吹奏楽指導の基本

○　新入生のパートの決め方について

生徒が吹きたがる楽器と向く楽器とのちがいがあります。これを誤ると今後のバンドの演奏技術、バランス等にあまりよい成果は得られません。生徒の希望に耳を傾けることは生徒の意欲に関して大変重要ですが、吹奏楽に未熟な生徒は、単に見かけや憧れ、思い込みだけの希望となり、本来、それぞれの管打楽器の特性に見合った選択になりません。最終的には指導者が決定することを伝え、様々に納得させる指導を駆使して決めてください。決して生徒同志、上級生に任せるだけでは行わないでください。生徒の力関係のみが優先し、生徒同志のもめごとの原因になります。また、公平なジャイケンもバンドにとって有効な編成とはなり得ません。

＜重要＞

・唇のつくり、歯形、体格、を見る。

・音楽経験（ピアノ・エレクトーン）などアンケート調査をとる。

・楽器決定前に、簡単なテストや実技試験（音感、リズム感）を行う。

・Ｆｌ、Ｃｌ、Ａｓは譜読みが得意な生徒とする。

・Ｏｂ、Ｈｎ、Ｔｂは音感が大切です。

・Ｅｕｐ、Ｔｕｂは唇が厚く、肺活量が多いほうが良い。

・Ｔｐは全体的に優れており性格も強気の者が良い。

・上級生の人数、演奏力を補う配置にも配慮することが重要です。

１年生で音楽的にNo１の生徒はどのパートに配置することが、現在の編成にとって有効か、No２の生徒は…。人間関係も含めて、全体のバランス、１年後、２年後を見据えることも必要です。

○　音づくり（人が口や体を使って奏するもの、鍵盤楽器、弦楽器との違いが大きい）

１にも２にも呼吸法（息の圧力）とアンブッシャ（常に正しいアンブッシャを心掛けさせることと、練習時間をロングトーンや基礎に多く費やすことを意識化することも大切です。そしてプロや優れた演奏家の音を常に聴くように日常的に指導されたい。

○　チューニングは、指導者と奏者の音感がものを言います。

ピアノやエレクトーンと違って機械的なチューニングは不可能です。しかし指導者が分らなくても、生徒の音感を育てる練習の導入によって、だいぶクリアーできます。また、最近の生徒の中には音感が優れている者も多いように思います。

○　日々の練習では、顧問が直接指導しなくても目的のない練習より「効果的な練習」を心がけてください。

○　選曲については、「したい曲」と「できる曲」の兼合い。その曲で何をねらうかが大切です。（演奏技術の向上、音づくり、生徒の満足・親睦等）特にコンクールでは、その演奏団体のパート・個人の力量、バランス、生徒の意欲を考慮して、指揮者の趣味と感性に合うものが良いと思います。

○　曲のまとめ方については、曲想に応じた吹き方、音質（これは日頃の基礎練習がものをいいます。そして曲の分析と表現（まとめ方と表現は指揮者の研究がものをいいます。初めは真似から、デモテープ・ＣＤ、上手だと思う演奏団体を参考にされたい。）

○　吹奏楽部だけではありませんが、指導者のいないとき、目のいき届かない時間や場所でも生徒がどれだけ自主的に自己を磨く練習に励むか大切です。叱咤激励が重要です。

Ⅲ　練習形態と練習方法のポイント

＜練習形態について＞

①合奏形態による基礎・ロングトーンの練習
②合奏による演奏曲の練習
③個人練習
④パート練習
⑤学年別練習（分奏）
⑥木、金、打楽器別練習
⑦セクション練習

○　どのような練習が効果的かということは練習の流れの中で考えましょう。新曲の場合、個人やパート練習が中心になると考えらますが、特に中学生の団体では、その重油性必要性の認識が甘い場合、合奏や分奏、学年別等をうまく組み合せて、生徒の興味・関心・意欲を持たせる方が効果的な場合が多いようです。パート練習を中心に考えた日でも、指導者の時間が許す範囲で、少しでも合奏形態による基礎・ロングトーンや合奏をすすめます。音楽は合わせることが楽しくて、練習意欲を高めます。

○　指示のない生徒まかせの個人やパート練習は、よほど意識の高いたバンドでない限りあまり効果がありません。（但し、生徒の自主的な力や、バンドのまとまり等を図る目的や、生徒個々やバンドの自主性を育成する目的で、生徒に任せる練習も必要です。）

＜練習の内容の参考例＞

○　姿勢やアンフッシャを確認する練習（鏡やチューナーを用いて）
◎　口ならし（マウスピースなどのみと楽器本体と）
◎　ロングトーン（８拍、１２拍、１６拍、３２拍、）（Ｂｂ、Ｃ、Ｆ、Ｅｂ各音階）
○　リズム感をつける練習（メトロノームの使用、エレクトーンなどのオートリズムの利用等）
○　吹き方を統一する練習（アクセント、スタカート、テヌート、スラー、クレッシェンド、デクレシェンド、フレーズどり等）…何か全パート統一の基礎の練習曲集など

があれば有効です。ひとつの単純な音階練習でも様々な練習ができます。

○　ダイナミックスとバランスの練習（ｆｆ、ｆ、ｍｆ、ｍｐ、ｐ、ｐｐはバンドの力量で基準を一定練習しておくとよいでしょう。）（各パートの人数、生徒の力量により常に注意を払う練習をすることも必要です。）

◎　音程を合せる練習

ピッチはチューニングのときハミングして自分で合わさせ、その後メーターで確認するのもひとつの方法です。（Ｂｂばかりのチューニングでは良くない。）

チューナーを個人で持たせ、個人練習で。特に楽器そのものの音程のバランスを常に考えさせることも必要でしょう。（チューナー等は野球部のグローブやスパイクシューズと同じ、ブラスにとっては必需品として指導をしましょう。入部と同時に購入させることも必要です。メトロノーム、マースピースも同様、しかしそこまで出来ない学校は、チューナーやメトロノームは多数備品として購入していくようにされたい。）

○　音感を育てる練習

基音から跳躍練習（ド～ド♯、ド～レ、ド～レ♯…、ド～シ、ド～シｂ…）タンキングとリップスラー(テンポ遅く～速く　)

ハーモニーの練習曲による

演奏曲の中でもポイントのところはハーモニーをバランス良く組立てる練習　を行い、常に生徒に意識させましょう。

○　演奏技術を磨く練習（主に個人練習、そのときメトロノームが必要）木簡は特に指がまわることも大切です。（かえ指も含めて）

○　演奏曲の個人・パート等の練習（日頃から基礎の練習を積んでおれば演奏曲の練習は非常に効率良くできます。）

○　演奏曲の合奏練習（基礎技術等、表現も含めて、指揮者・生徒の日頃の努力と音楽性が大切です。）

〔　◎はどのような練習形態でも余程の事が無い限り必要な練習　〕

＜現実的な学校での練習のメニュー＞

○　楽器準備、音出し…毎日１０～１５分で済ませるように指導

○　ロングトーン…最低毎日２０～３０（音質を上げたい場合はさらに長く、立奏での練習も効果的です）

○　基礎練習（合奏形態、分奏、パート練習）…２０分

○　その時期、その日の目的によっての練習…５０～１２０分

合奏、個人、分奏、パート練習

音づくり、基礎練習、曲の感じを捕える、リズムを正確に合せる練習

正確な譜読み、個人演奏技術の向上

各パート・セクションでリズムを合わす、吹き方の統一、音色を揃える、表現を統一する等

★　演奏日から試算して、練習を組立てていく事が大切です。

＜練習日程の徹底と指示について＞

○　基本的に、生徒と指導者の信頼関係の下、生徒の自主性を高める指導が大切です。

学年ごとの部活日誌（練習の日程、意見・感想、イラストその他の記入を許し）をつくり生徒同士、生徒と指導者との心の交流に努めるとよいでしょう。

上級生の日誌には次のような指導が効果的だと思います。

①　放課後までのあいた時間に練習日程（時間、内容、場所、留意点、連絡事項）を書いておく。

②　当番に、練習前カギと共に日誌を職員室に取りに来させる。

③　当番に、練習室の黒板等に練習日程を板書させる。

④　練習日程に合せて練習させる。（初期の段階では指導者は時間通りに行動する。生徒のみでの練習を指示していた時でも練習場所を観察し、指導を徹底する。）

⑤　当番に、片付け・戸締りの責任を持たせる。

⑥　当番に日誌を持って帰宅させ、感想・意見などを書かせ、次の日の午前中に提出させる。

Ⅳ　吹奏楽祭・コンクール等演奏に向けて

＜指導者の心構え＞

○　三年間の見通しをもつ。

○　選曲は、早めに行う。

○　コンクールでは、コンクールが終われば次のコンクールの選曲を含めて、次のコンクールを意識しておくことも大切です。

○　常に生徒に他校の演奏を観察して聞かせるよう指導しましょう。よくプログラムを持ち、他校の演奏を批判的に採点する学校がよくあるが、コンクール至上主義的な音楽を冒涜するものだと私はさせた事がありません。また、逆に自分の演奏が終われば、どこかでしゃべっているか、さっさと帰られる　　学校もある。これもどうかと思います。基本的には、それそれぞれの学校の演奏やその奏者の「良い所」を見習うために、謙虚にさせたいものです。）

○　数ケ月の見通しをもった練習スケジュールを計画しましょう。（とにかく頭の中でイメージしておくことは大切です。）

○　演奏曲で練習しない。生徒は「曲」で「練習」したがります。しかし大切なのは日頃からの音づくり」「基礎技術」「吹き方の統一」「音感」が重要です。それができているならば、演奏曲の練習は、「譜読み」と「曲づくり（表現）」のみでよいのではないでしょうか。

○　日程的に余裕がある時は、個人練習やパート練習を重視して指導しましょう。合奏練習は「音づくり」「音感」の意識化に努めましょう。生徒にとって合奏は楽しいもの、部活が楽しく練習に励む意欲が生じます。合奏も週に１～２回は行うとよいでしょう。（基本的に合奏はできるだけ練習日程の中で毎日行うべきものと考えます。しかし合奏の狙いや中身を分ける必要があります。）

○　個人やパートは生徒の「意欲」が大切で、「初期の合奏」は生徒やパート　個々の

課題を見つけ指示し、個人やパート練習の「意欲化」を重視しましょう。

○　初期の合奏で、早くから「表現にこだわる練習」は効率が悪いと思います。絵画と同じように、全体の構図から繊細な表現へと向かうべきだと思います。

＜選曲について＞

○　ＣＤやデモテープを日頃から集めておきましょう。

○　以前のプログラム、県外のプログラムも参考にしましょう。

○　日頃から他校の演奏を聞く姿勢を持ちましょう。（吹奏楽祭やコンクール当日はその好機、特に、上手で自分の学校に似ている編成やバランスをもつ所は非常に参考になります。）

○　吹奏楽祭は自分の学校の演奏力よりレベルの高い曲を演奏して、生徒の演奏技術向上を図ることもよいのではないでしょうか。もちろん、祭ですから、様々なジャンルでの話です。

○　コンクールでの選曲

　予選を通過する事を重視する場合、演奏力の７～８割の曲でしっかりまとめられる曲を考えましょう。

　県大会で高い評価や県代表を狙う場合、演奏技術、バランス、技術力のあるパートや個人生徒を生かせる選曲を行いましょう。

○　指導者の感性に合う選曲も大切です。

○　選曲が楽しみや趣味になれば最高です。

＜曲づくりのイロハ＞

○　ひとつの行事が終わった時点で次の演奏曲を配布するよう準備､選曲をしておくと、生徒の意欲や指導者の信頼感も高まります。（空白期間が少なく、生徒に指導者の熱意が伝わります。生徒達は新しい曲を楽しみにしていますし、何の曲をするのか分らない期間が多いことや、「先生、まだ曲をきめてやらへんわ」という生徒の声がもれるような事は厳禁です。）

○　曲づくりのおおまかな流れ

①　楽譜の配布と同時に、ＣＤなどを一斉に聞かせる。（コンクールの曲等は、生徒個人にデモテープ（課題曲・自由曲）を配布する…極めて有効）

②　個人の譜読み練習

③　パート練習（メトロノーム等を使用）

④　木・金・打別指導

⑤　合奏（段階１）…縦の線を合わす。曲の流れをつかませる…課題の指示

⑥　②～④

⑦　合奏（段階２）…吹き方の統一、ダイナミクスの意識化、音程の調節…課題の指示

⑧　②～④

⑨　合奏（段階３）…表現（リズム、音質、体の動き）、心の持ち方、個性の表現、曲想…次の合奏への課題の指示

＜その他の留意事項＞

○　初～中期の段階では、細かく厳しく指導しましょう。

○　生徒に自信を持たせることと、謙虚さを持たせることの兼合いに配慮しましょう。

○　コンクール当日一週間前ぐらいは、合奏練習を中心に、その時点での演奏力の中で、全体的なまとまり、表現を中心に練習しましょう。

○　録音を頻繁に行い、それをもとにチェックし、より高度な演奏に近付けましょう。指揮譜を家用にコピーしテープをもとに研究し、赤ぺんで書込み、次の練習に生かすことは効果的です。

○　生徒に合奏の時は必ず鉛筆を用意させ、注意事項や表現を記入させます。（意欲的で感性のある生徒は本当に自己流にカラフルに自分の楽譜を作っていきます。）

○　もちろん指揮譜にも気がついた事を記入しましょう。

○　指揮の振り方・テンポ等、指揮者も練習し、常に同じように指揮ができる様に努めましょう。（演奏当日、極度に緊張しており、指揮者までいつもと違う所があれば演奏に支障をきたします。）

○　場所的なこともありますが、一週間前ぐらいにはステージの体型（生徒の間隔も含めて）で練習しましょう。（当日の雰囲気に馴れさせることと、聞こえてくる音が当日のものに近付けましょう。団体によっては会館等のホールを借切って練習するところもあります。）

○　立つ指導や間隔、譜面台の高さなどを合わす練習も必要です。

○　当日の、チューニング室入りから演奏終了後を想定した練習を行いましょう。

○　タイムは必ずストップウォッチで何度も計っておきましょう。また制限時間の３０秒程度までに、合間のチューニングも含めて曲をまとめておきましょう。…時間ギリギリでは指揮者も生徒も精神的に余裕がなく力を発揮しにくいでしょう。

＜吹奏楽コンクール「金賞」「県代表」をめざして＞

○　３年間の見通しを持って、新入生の入部時点から考えたいこと

①　１年生の楽器担当は、生徒の意見を尊重しながらも、教師が主導で決定する。

②　担当楽器について、オーボエは絶対音感が必要で、フルート、クラリネット、アルトサックスはピアノやエレクトーン等を習っていることが条件、出歯生徒は、フルートは厳禁、Ｔｐは精神的に強く唇が薄い、筋力のある生徒、ＴｕｂやＥｕｐは唇が厚い生徒、Ｐｅｒにも優秀な生徒を、上学年とのバランスを考えた担当させる楽器の決定が重要です。

③　吹奏楽部は集団競技の運動部という意識の醸成

○　予選通過や県大会で金賞を取るための必要条件と考えていること

①　楽器らしい音質

練習の５０％は音作り　・ロングトーンは１６拍以上のもの

②　ピッチが合っていることも必要条件

生徒自身に音感を付ける（柔らかい頭の中学生に音程を合わす楽譜練習）　・一

人一人離れての、チューナー・マイクを使用したロングトーン　・歌唱練習や楽譜を歌っての練習も効果がある。

○　演奏曲の完成度

○　選曲について

①　現在の各楽器の状況により選曲が大切

②　したい曲とできる曲とは別

③　予選通過をねらうか、県大会で金賞をねらうか、県代表をねらうかで選曲は異なります。

④　小編成では、特に、効果的な曲が重要

⑤　トランスものは評価が厳しい。（プロオケの審査員は原曲のイメージがある）

○　高印象を得るために

①　ソロや長い主旋律を演奏する生徒はそのバンドの最高優秀生徒と見られる

②　大編成でも小編成でもピカッと輝くソロが必要、その数が多いと高得点になるようです。

○　打楽器の調整（プロの打楽器奏者にとってそれぞれの打楽器も子どもや孫です）

①　ハリの無いヘッドは音質が悪い（最低限度の交換）

②　ヘッドのバランス（ＢＤもＳｎＤも）

③　Ｔｉｍｐは当日前には必ず調律する

運搬すればピッチはずれ、放置しておけばずれ、使用すれば伸びるしハリもねじれると考えましょう。

④　正しい持ち方や正しい奏法の研修と指導

タンバリンやトライアングル、スレイスベル等の持ち方

錆びた楽器や傷んだ楽器は禁物

⑤　見た目綺麗な楽器

日常の整備(シンバル､グロッケンも練習後はしっかり油で軽く拭くクセづくり)、滑車に注油など（舞台での移動で、きしむ音は厳禁）も大切です。

⑥　学校によっては質の悪い楽器しかない場合、他校や一般バンドから借用することも考えましょう。

⑦　体調管理とイメトレ

大会３～４日前は曲づくりの合奏でなく、本番で活かせる練習、出来ないとこは隠す練習を優先する

⑧　本番時間に体調的も精神的にもピークに想定した練習

金管、特にペットの唇をつぶさない

できない所を不安にしない、出来るところを名演奏させる（数ヶ月の練習で出来ないところは、２～３日で出来ない）

⑨　舞台を想定した練習

打楽器の搬入練習も演奏の練習　・入場姿勢や着席、楽器を上げる練習

当日演奏に、合奏練習の成果を活かせる練習、集中力をあげる練習

○　曲づくりに時間を割けば音質は落ちる
　合奏はできるだけ早い時期から開始して、曲づくりは３日前には終了する
　３日前にはロングトーンの時間を増やし音質を回復する　・コンクールで曲想は抜群だが、音質がよく無ければ金賞はない

○　詰めの練習
①　出来ない所は、少しでも出来る知り合いや専門的な講師等人の手を借り、セクション、パート練習に少しでも知り合いや先輩に助力してもらう。
②　ピッチを合わす練習を充実する（音感ない指導者は他力を考える）
　ピッチが合わなければ金賞はない
③　バランス（金賞の原則）を考える
　特に、打楽器と管楽器のバランス
④　ホール練習は県代表ねらいでは効果は大きい。また、大編成の県大会金賞団体はほぼ行っている（予算的には困難）
　体育館か広い他で練習開場で練習し、他の指導者等にバランス等を聞いて貰う。

○　士気を高める
①　練習中にスポーツや演劇などいろいろな話をする
②　スポーツの円陣を組んで気勢をあげる練習
③　チューニング室で円陣を組んで気勢をあげる。（適度に興奮させてステージで怯まないために）
④　出来ていなくても前日は「嘘」でも誉める
⑤　当日は調子がよさそうやなと、「嘘」でも誉める

○　日頃から生徒個々の音楽力を高めることも
　近隣で開催される管弦打楽器の演奏会に聞きに行くことを進める（高校吹奏楽部や優秀な一般バンドの演奏会含）への

○　おまけ
①　例えば、本番で打楽器搬入生徒に白手袋させ楽器を大切にしているところを見せる等
②　くじ運も重要
　出演１番で金賞は難しい。（基準にされ６，７が付く）
　出演が早ければ、当日の朝が早く体調が崩れ、充実した演奏ができない。
　出演が遅すぎると練習に体力を使い果たす。（生徒ではコントロールできない）
　当日の出演時間を想定して、一週間前ぐらいから早朝からの練習や午後からの練習を行い体調を慣れさせる）
③　栄養補給も考える（精神力・体力も大切、腹が減っては戦はできぬ）
　当日おにぎり一個又は補助食品を持参し、演奏の相当時間に合わせて食させる等

（出番が早く早朝集合の場合ではバスの中でも）

Ｖ　必要経費と予算の獲得に関して

＜活動、楽器維持費について＞

○　良い演奏にはそれなりの手入れ用具の経費が必要です。演奏姿勢は日頃の手入れに比例します。

①　クラリネットのリードは各自４～５枚は持たせたいものです。（ローテーションで使用させ、よく鳴るものを本番用に残させましょう。）

②　木管楽器はクリーニングペーパー、キーオイル、コルクグリス、スワブもできるだけきちんと持たせましょう。（楽器の寿命が違います。これを個人購入にすると、個人持ち楽器の生徒以外はほとんど持たず、楽器の整備もしないので注意が必要です。）

③　金管楽器は、スライドグリス、ピストンオイル、ポリシングクロス、ガーゼ（掃除用）は必需品です。

④　トロンボーンにはその上にスライドクリーム、ウォータースプレー。

⑤　打楽器にもポリシングクロス、オイルは必要。（金属部を拭くため）

以上で小編成の団体で年間“最低”１０万円は必要でしょう。（吹奏楽に理解のない学校は残念です。）

○　年間の楽譜代５～１０万円は必要でしょう。（それなりの新譜は１万５千円はする）もちろんコピーで奮闘される先生もおられますが､著作権の関係でお勧めできません。

○　木管のタンポ交換、調整費は必要でしょう。自然の維持費として年間“最低”５万～１０万円は必要。（楽器店での簡単な調整で、１件２～３千円、本格的なオーバーホールでは１件２万から数万円はします。破損による修理は高くつきます。）…タンポや調整ができていない楽器は、生徒の努力以前の音質になります。

★　小編成の吹奏楽部で活動維持経費のみで最低年間２０万前後は必要ということです。

＜楽器購入について＞

○　どこの学校でも新しい楽器の購入費に年間“最低”３０万円はほしいものです。

○　残念なことに、安価な楽器はそれだけの音色しかありません。（滋賀南部には太刀打ちできないことは、このことも多分にあります。学校によっては、木管楽器は個人持ちで高価な物を持っている場合もあります。…私は基本的に個人持ちの強制は反対の立場です。）

○　打楽器、特にシンバルとグロッケン、良い楽器は未熟なたたき方でもそれなりに響きます。

○　曲想により打楽器の種類やマレットを使い分けることが必要です。どんな曲でも同じ楽器、マレットで演奏することはあり得ません。

○　マウスピースは個人持ちにしたいものです。せめてリード楽器はそうしてパートの音色をそろえる努力をしたいと思います。（Ｃｌ…バンドレン５ＲＶ、Ａｓ…セルマ

ーＣ☆等）

＜予算獲得のために＞

○　必要なものは必要です。

○　通る通らないは別にして、きちんと予算要求を出しましょう。

・　維持経費　　・　活動費　　・　新規楽器購入費

○　学校での地位向上、理解を得る努力をしましょう。

①　きめ細かに必要経費をあげて提出する。

②　学校の諸行事に積極的に参加する。

③　地域の行事に積極的に参加する。

④　保護者の理解を得る。（保護者にも吹奏楽の理解を得るために文書等を送る）

⑤　生徒から部費を徴収し活動経費に補填する。

⑥　保護者会などにも協力してもらい､校長や教委などに働きかけてもらいましょう。

⑦　吹祭やコンクールで良い演奏をして評判を上げること有効です。

Ⅵ　各楽器のアンブッシャと基本姿勢

楽器手入れのポイント（あまり教則本に書いていない事を中心に）

《楽器のアンブッシャと基本姿勢》

＜木管＞

①　口や喉の安定、タンキングも舌根を動かさない。…安定した音、音色、音程

②　好みのアーチストのＣＤ等を繰返し聴く。…音づくりに有効

③　指は若いうちに難度の高い練習曲で練習をする。

④　かえ指やトリルキーもしっかりマスター、譜面上でやり易いものを使う。

⑤　表現は常に自分で考え、追求める。

＜フルート＞

①　姿勢は体に対して顔は左に…体のねじれが無くなる。（Ｐｉｃは正面で）

②　下唇は引いて固定し、上唇は若干三角形で。

③　頭部のみで、右手で管をふさいでＡ（又はＥ）の音が出る程度のアンブッシャ。

④　腹圧をかけやすいために、姿勢は少し前倒れで。

⑤　チューニングは管全体のバランスから考えてＢｂ よりＡで。

⑥　足は前後に、右足は後に引く位置で。

＜クラリネット＞

①　リードの高さはマウスピースの黒い部分が毛すじほど見える程度に。

②　マウスピースの１．３㎝のところを、口に。

③　下の歯に下唇をしっかりかぶせる。

④　上の歯が下の歯より前に行かないように注意する。
⑤　下顎は左右下に引いてしっかり固定する。
⑥　マウスピースのみでＣの音が安定して出るように。（タル付きではＦis）
⑦　足は腹に力が入るように、前後に固定することも良い。

＜サックス＞
①　リードの高さはクラリネットと同様。
②　アルト…マウスピースのみでＡb 、ネック付きで低いＡb
③　テナー…マウスピースのみでＧ、ネック付きでＥ
④　バリトン…マウスピースのみでＥb 、ネック付きＥb
⑤　サックスは鳴り易い楽器のため音色やビブラート等は特によく研究すること。
⑥　高音域では、ピッチが非常に上がる楽器なので、右手の小指でどこかをふさぐと下がる。演奏する楽器や奏者の特性があるので、チューナー等で、それぞれの音について見つける。できれば四分音符以上はその指使いとしたい。中学生でも速いパッセージは無理としても、全音符等伸ばす音はそれを指使いとする。

＜金管＞
①　マウスピースは、上唇が２／３、下唇が１／３を基準に。
②　唇が薄い生徒はＴｐやＨｎ、厚い生徒は中低音の楽器。ＴｐやＨｎ等は歯並びも考慮されたい。
③　ＴｐやＴｂ等ストレートな楽器は体に真直ぐ構えさせ、楽器は床に平行より少し下げた位置で。（初め慣れるまでは、いつも姿勢に気をつける。）
④　ＥｕｐやＴｕｂはマウスピースは体に真直ぐで、ベルを体の右の方に位置するよう構える。
⑤　ホルンは首を少し左に向け、マウスピースは顔に垂直に、体のねじれが生じないように構える。
⑥　ホルンの右手の働きは、①音色の変化②音程の調節（基本的に右手をベルに入れれば低くなり、抜けば高くなる。）③ゲストップ音（ホルン独特の金属の音色）の操作④楽器をたもつ等があるので平手で持たないように。（右手は少し“く”の逆の形をつくり親指を人差し指に自然にあて、ベルの内側の上の方に親指・人差し指をあてる感じ）
⑦　高い音の時は、息の量を多く、息のスピードを強くする、アパチュア（唇の隙間）を小さくする。低い音は息のスピードをゆっくり、アパチュアを大きめにする。
⑨　タンキングについては、次を参考にしてください。

やわらかい発音	するどい発音
高音域…ｄｅｅ	高音域…ｔｉｉ
中音域…ｄｏ	中音域…ｔｗｏ
低音域…ｄａａ	低音域…ｔａａ

⑩　チューニングについて
ホルンを除いて実音Ｂb で良いが、ＦやＣ、Ａ等もチューニングする癖を。特にチ

ューニングの主管意外の第１～３バルブの調整管も定期的に調整しておくように。
　ホルンはＦやＣで、Ｂｂ やＣ、Ｇ、Ｅも定期的に第１～３の調整管で調整すること（Ｗホルンは主管とＦのチューニング管、Ｂｂ のチューニング管のそれぞれのバランスに気を配ること。Ｂｂ シングルも基本的にはＦ管同様、開放管で）

＜管楽器の呼吸法とイスの位置＞

①　腹式呼吸が大切といわれる。もちろんそれはイメージで、息が入るのは肺です。肋骨と横隔膜を有効に働かせる筋肉の強化が重要です。練習には上向きに寝転んでの呼吸でその感じをつかませます。肩の力を抜き、腹と腰の上部がしっかり膨らむ様にします。良い響きのある音には息の圧力が大切です。

②　日頃の練習では立奏によるロングトーンが有効です。

③　イスに葉１／３ぐらいに軽く座るのが望ましいようです。

④　フルートやホルンは体は指揮者の方に向かずに座り、首か指揮者の方に向くようにした方が体のねじれが生じなく自然になると考える。イスの向きに対して少し右（奏者として）にずれて座ることをすすめる。（奏者が、指揮者から見て、左がわに位置する場合）

＜打楽器について＞

難しいことであるが、打楽器奏者に、管楽器が吹けない、音感やリズム感のない生徒ばかりにさせないようにしましょう。学年に一人は少なくてもＮｏ１、２の生徒を配置しましょう。

また打楽器の質（残念なことであるが、Ｐｅｒの音質はほとんどその楽器の値段にで決まってしまいます）や調整の度合い、★指揮者の研究や指示の度合いがストレートに出てくるので注意が必要です。つまり全体の中で管楽器とのバランスと曲想にあった演奏方法など常に指揮者が研究し、生徒に指示しなければ、生徒のみでは意識できないし考えられません。生徒はその繰返しの中でやっと打楽器の難しさや楽しさを少しずつ見つけだして行き、練習態度も含めて自分で考え表現に努力していきます。その割には表現の指示も含めて忘れがちになるパートです。

○　Ｐｅｒは一人一パート非常に大切で目立ちます。

○　奏者に合った楽器の高さ位置に気をつけさせたい。

○　演奏の姿勢は少し前かがみで、棒立ちはよくありません。

○　手首、肘、肩のリズミカルな動きとしなやかさが大切です。

○　同じ楽器、同じマレットでも叩き方で音色に違いが生じます。響きが大切なので、決して押え付けた叩き方はしないようにさせてください。

○　管楽器とのバランスに常に配慮をしてください。（指揮者の指示に細心の注意をしましょう。演奏を打楽器群がこわしている団体がまだまだ見られます。６０人編成でも２０人編成でもスネアドラムは一台、Ｔｉｍｐも１セットです。生徒に意識させたいものです）

○　演奏曲の練習よりＰｅｒ独自の基礎練習を毎日行わせてください。

★　Ｐｅｒの練習は必ず教則本でされたい。（技術指導のビデオなども参考に）

★　Ｐｅｒにはチューニングが必要です。技術や表現がありながら、ロッドの締め方などの調整不備の演奏はよく見かけられることは非常に残念です。

①　ＳＤの場合、ヘッドはＧ、Ａの音で、裏皮は少し高めにするとクリアーな音が得られ、低くすると深みのある音色となります。

②　ＢＤでは、ある音にチューニングするより、好みの音にチューニングします。打面の裏側を低くすれば響きのある音、高くすればマーチ等に適する音となります。裏面を低くしておいて、打面をミュートするなどをすることが現実的です。また夏と冬の気温によるヘッドの張り具合の違いにも注意し、定期的に調整する必要があります。）

★姿勢や奏法について

①　Ｃ．Ｃｙｍには、高音と低音の２枚一組となっており、左手に低音、右手は高音のものを持って演奏します。左手のものの３㎝のところに、右手のものの先を当て、瞬時に全体を合わせます。（シンバルは平行に合わせることはない、空気が逃げられない場合、響きのない音になります）

②　Ｘｙｌｏの打点は、左手のマレットの先は真ん中より上の方、右手は下の方を叩きます。（右、左がぶつかることをなくすため）演奏時の立ち位置は、Ｘｙｌｏに平行に立つのではなく、少し右回りの方向に立ちます。演奏時は、左右の足を、高音を奏する場合は、右足を、低音では左足をずらして身体をスライドさせます。打点は、鍵盤が固定されている場所は叩かないこと、早い演奏では、黒鍵の固定場所より下の方を叩くことも可です。（固定場所を外せば、音色はそれほど変わりません）

③　Ｔｉｍｐの打点は、リムから１０～１５㎝の所。立ち位置は、ＬとＭの２台を正面に、ＬとＬＬには、身体を左旋回して、尚打点が合うように、ＬＬの位置をとる。Ｓについても同様に行います。チューニングはロッドで調整しておき、ゲージのチューニングは、低音から高音へと行います。ロールについては、１拍六連符でなだらかに奏します。ロールの後の決めの四分音符は、ロールの最後の１拍を何打点か決めておき、決めの四分音符が低い場合が多く、ロールを左から入って、決めを左手で打つとよいでしょう。

★　演奏曲に合った打楽器のサイズ、チューニング、使用するマレットの種類を研究しましょう。（軟らかめか硬めか、Ｘｙｌｏではプラスチックのもの、ＶｉｂやＭａｒｍｂでは糸巻きのものを使用します。金属マレットはＧｌｏのみに使用されます。）叩く場所、叩き方なども曲想に応じて研究しましょう。指揮者の細かな指示を自分で解釈し、打楽器の様々な表現を研究することが重要です。

★　演奏時は、頭と体でリズムを感じ、手首や肘など全身を使って豊かに表現しましょう。顔の表情も重要です。（打楽器の表情や表現に乏しい団体が多く残念です。）繊細なリズムやダイナミックなリズムは特に気をつけたいものです。

《各楽器の手入れについて》

各部定期的に楽器の掃除の日を設定しましょう。また、演奏会の終了日の次の日や、テスト前など練習をしなくなる日にも必ず行いたいものです。個人や生徒任せにする事

は、しっかり伝統がある団体以外は手入れをしない事と同じになる。（楽器の手入れが悪い団体、個人は音楽に関しても良くありません。）但し、演奏会前日のやり過ぎの手入れは、キーなどの調整がくるう場合があるのであまりすすめません。手入れ用品や掃除用具は各自にきちんと持たせ、必ず常に補充してください。

＜Ｆｌ＞

・　必要用具…ガーゼ（掃除棒用）、掃除棒、ガーゼ（表面掃除用）、キーオイル、ポリシングクロス
・　練習の終わりはもちろんのこと、合間にも掃除棒とガーゼで管内を拭きとる。
・　表面の汚れは、キーに負担をかけないように、ポリシングクロスで。
・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｏｂ＞

・　必要用具…大羽根（又はスワブ）、ガーゼ、クリーニングペーパー、ポリシングクロス、キーオイル
・　演奏の終わりだけでなく合間にも、まめに大羽根を通すこと。
・　タンポやトーンホールの水分は、クリーニングペーパーで。
・　２ケ月に一度はキーオイルを。
・　温度の急変は楽器がわれる原因、キーの調整も楽器店で。

＜Ｃｌ＞

・　必要用具…カーゼ、クリーニングペーパー、スワブ、ポリシングクロス、キーオイル
・　演奏の終わりや合間にも、スワブを通す。
・　タンポはクリーニングペーパーで。
・　ちょっとした汚れはガーゼーで、表面はポリシングペーパーで。
・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｓｘ＞

・　必要用具…ガーゼ、スワブ、サックスクリーニングスワブ、ポリシングクロス、キーオイル
・　マウスピースやネックはスワブで。
・　本体は、サックスクリーニングスワブで。
・　表面は、ポリシングクロスで。
・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｔｐ、Ｅｕｐ、Ｔｕｂ＞

・　必要用具…マウスピースブラシ、掃除棒、バルブオイル、スライドグリス、ガーゼ、ポリシングクロス
・　基本的には練習前にはバルブオイルをまんべんなく塗る。
・　練習終了後、表面をしっかりポリシングクロスできれいに拭くこと。
・　ときどきマウスピースをマウスピースブラシで。
・　１ケ月に一度は、調整管等をガーゼ・掃除棒で掃除をし、スライドグリスを塗る。

粘りのあり過ぎる管はバルブオイルをつけてガーゼでよく拭き取りスライドグリスを塗るとよい。（グリスがピストン内部に付かないように、ぬり方は考えること。）

・　学期に一度は、ピストン部の上下のねじをすべてはずし掃除する。（バネを無くしたり、ねじを痛めることのないように。）
・　ねじが堅い場合は、木槌でかるく叩くとよい。

＜Ｈｎ＞

・　必要用具…ガーゼ、ポリシングクロス、マウスピースブラシ、ロータリーオイル、スライドグリス
・　唾は主管を抜いて。また、マウスピースをはずし吹く逆方向に回して唾を捨てる。
・　練習後は、管全体をポリシングクロスでよく拭く。（特にベル内側）
・　２日に一回はロータリーオイルをさす。バルブスライドを抜き、ロータリー部を下にし、それぞれ１～２滴下する。ロータリーキャップをはずし接触部や裏側にも。
・　各スライドはときどき抜いて、ガーゼでよく拭いてからスライドグリスを塗る。
・　学期に一度は、掃除棒などで管内全体を掃除する。（ロータリー部の掃除の仕方もありますが、生徒には勧めません。）

＜Ｔｂ＞

・　必要用具…ガーセ（短い物と長い物）、ポリシングクロス、スライドクリーム、スライドグリス、ウォータースプレー、掃除棒
・　練習終了後、唾をよく抜き、管全体をポリシングクロスでよく拭く。
・　月１～２回はスライド部の内管を軟らかいガーゼでよく拭きとり、スライドクリーム（ほんの少量）を塗り、よくのばす。ウォータースプレーで水をかける。外管は掃除棒とガーゼで内側をふきとる。内管をていねいに外管を入れ、スムーズに動かす。チューニングスライドは、ときどきよく拭きとって、スライドグリスを塗る。（管の中も月に一度は掃除棒で掃除させます。）

＜Ｐｅｒ＞

・　必要用具…ガーゼ、ポリシングクロス、バルブオイル
・　使用後はかならずクロスで拭く。特に金属部はオイルを少しつけたクロス等でていねいに拭く。シンバル類、グロッケン等の錆びは音質に微妙に影響します。
・　ヘッドは最低２年ぐらいで取替えること。（伸びきったヘッドは響きが無い）使用後のＴｉｍｐはペダルを一番ゆるめた状態にしておくようにさせてください。

Ⅶ　まとめにかえて

学校に所属する吹奏楽部は、課外活動といっても今のところ学校教育の一環です。できれば指導者も生徒も心から歓べる“部活”をしたいものです。
子どもを育てるには、大人の教育力が問われます。この場合、やはり指導者＝部活顧　問＝学校の先生でしょう。子ども達に“楽しさ”を味わさせるためには、先生も楽しく　なければなりません。楽しいということは、成就感や充実感です。

先生も生徒も、“部活”としての吹奏楽から“音楽”としての吹奏楽をしてほしいものです。（少なくとも部活としての吹奏楽はどの学校でも同じ様にしてほしいですが）

そのために、ひとつでも参考になることがあればと、少し傲慢でしたが、思うがままに

率直に綴ってみました。東近江・湖東の吹奏楽の発展とレベルの向上を願ってのたわごとです。ほとんど経験からのものですので、専門的にいうと誤っているものや、音楽的には誤りですが、この地域の生徒に対しては、現実的で有効であるというようなことも沢山あります。あくまで参考程度にして下さい。ご批評ください。

527-0025
滋賀県東近江市八日市東本町９－１
電話／ＦＡＸ　050-8035-8120
e-mail marongto11@yahoo.co.jp

以下生徒資料

（生徒配布用）練習形態と練習方法

＜練習形態について＞

①合奏形態による基礎・ロングトーンの練習
②合奏による演奏曲の練習
③個人練習
④パート練習
⑤学年別練習（分奏）
⑥木、金、打楽器別練習
⑦セクション練習

＜練習の内容の参考例＞

○　姿勢やアンブッシャを確認する練習（鏡やチューナーを用いて）

◎　口ならし（マウスピースなどのみと楽器本体と）

◎　ロングトーン（８拍、１２拍、１６拍、３２拍、）（Ｂｂ、Ｃ、Ｆ、Ｅｂ各音階、半音階）

○　リズム感をつける練習（メトロノームの使用、エレクトーンなどのオートリズムの利用等）

○　吹き方を統一する練習（アクセント、スタカート、テヌート、スラー、クレッシェンド、デクレシェンド、フレーズどり等）、何か全パート統一の基礎の練習曲集などがあれば有効です。ひとつの単純な音階練習でも様々な練習ができます。

○　跳躍の練習　ド～ド♯　ド～レ　ド～…　タンキングとリップスラー(テンポ遅く～速く)

○　ダイナミクスとバランスの練習（ｆｆ、ｆ、ｍｆ、ｍｐ、ｐ、ｐｐはバンドの力量で基準を一定練習しておくとよいでしょう。）（各パートの人数、生徒の力量により常に注意を払う練習をすることも必要。）

◎　音程を合わせる練習

・　ピッチはチューニングの時ハミングして自分で合わし、その後メーターで確認するのもひとつの方法です。（Ｂｂばかりのチューニングでは良くない。）

・　チューナーを持って、ロングトーン、練習曲で意識して練習しましょう。

○　音感を身につける練習

・　基音から跳躍練習（ド～ド♯、ド～レ、ド～レ♯…、ド～シ、ド～シｂ…）

・　ハーモニーの練習曲による

○　演奏技術を磨く練習（主に個人練習、そのときメトロノームが必要）木簡は特に指がまわることも大切。（かえ指も含めて）

○　演奏曲の個人・パート等の練習（日頃から基礎の練習を積んでおれば演奏曲の練習は非常に効率良くできる。）

○　演奏曲の合奏練習（基礎技術等、表現も含めて、指揮者・生徒の日頃の努力と音楽性が大切。）

〔　◎はどのような練習形態でも余程のことがないい限り必要な練習　〕

＜現実的な学校での練習のメニュー＞

○　楽器準備、音出し…手際よく、毎日１０～１５分で行う

○　ロングトーン…最低毎日２０～３０（音質を上げたい場合はさらに長く、立奏での練習も効果的）

○　基礎練習（合奏形態、分奏、パート練習）…２０分

○　その時期、その日の目的によっての練習…５０～１２０分

・　合奏、個人、分奏、パートそれぞれ

（音づくり、基礎練習、曲の感じを捕える、リズムを正確に合わせる練習等）

（正確な譜読み、個人演奏技術の向上）

（各パート・セクションでリズムを合わす、吹き方の統一、音色を揃える、表現を合わす等）

演奏に向けての心構え

○　演奏曲で練習しない。大切なのは日頃からの音づくり」「基礎技術」「吹き方の統一」「音感」が重要。それができているならば、演奏曲の練習は、「譜読み」と「曲づくり（表現）」のみでよい。

○　日程的に余裕がある時は、個人練習やパート練習を重視する。

＜曲づくりのイロハ＞

○　曲づくりのおおまかな流れ

①　楽譜の配布と同時に、ＣＤなどを聴く。

②　個人の譜読み練習

③　パート練習（メトロノーム等を使用）

④　木・金・打別分奏

⑤　合奏（段階１）…縦の線を合わす。曲の流れをつかむ

⑥　②～④

⑦　合奏（段階２）…吹き方の統一、ダイナミクスの意識化、音程の調節

⑧　②～④

⑨　合奏（段階３）…表現（リズム、音質、体の動き）、心の持ち方、曲想

＜その他の留意事項＞

○　合奏では必ず鉛筆を用意する。さ

○　場所的なこともありますが、一週間前ぐらいにはステージの体型（生徒の間隔も含めて）で練習しましょう。（当日の雰囲気に馴れさせることと、聞こえてくる音が当日のものに近付けましょう。団体によっては会館等のホールを借切って練習するところもある。）

○　立つ間隔、譜面台の高さなどを合わす練習も必要。

楽器の維持管理について

○　良い演奏にはそれなりの手入れ用具の経費が必要で、演奏姿勢は日頃の手入れに比例する。

・　クラリネットのリードは常時各自４～５枚は持ちたい。（ローテーションで使用し、よく鳴るものを本番用に残す。）

・　木管楽器はクリーニングペーパー、キーオイル、コルクグリス、スワブを持ちましょう。（楽器の音質を保つため。）

・　金管楽器は、スライドグリス、ピストンオイル、ポリシングクロス、ガーゼ（掃除用）は必需品。

・　トロンボーンにはその上にスライドクリーム、ウォータースプレー。

・　打楽器にもポリシングクロス、オイルは必要。（金属部を拭くため）

各楽器のアンブッシャと基本姿勢・手入れのポイント（あまり教則本に書いていないことを中心に）

《楽器のアンブッシャと基本姿勢》

＜木管＞

①　口や喉の安定、タンキングも舌根を動かさない。…安定した音、音色、音程

②　好みのアーチストのＣＤ等を繰返し聴く。…音づくりに有効

③　指は若いうちに難度の高い練習曲で練習をする。

④　かえ指やトリルキーもしっかりマスター、譜面上でやりやすいものを使う。

⑤　表現は常に自分で考え、追求める。

＜フルート＞

・　姿勢は体に対して顔は左に、体のねじれが無くなる。（Ｐｉｃは正面で）

・　下唇は引いて固定し、上唇は若干三角形で。

・　頭部のみで、右手で管をふさいでＡ（又はＥ）の音が出る程度のアンブッシャ。

・　腹圧をかけやすいために、姿勢は少し前倒れで。

・　チューニングは管全体のバランスから考えてＢｂ よりＡで。

・　足は前後に、右足は後に引く位置で。

＜クラリネット＞

・　リードの高さはマウスピースの黒い部分が毛すじほど見える程度に。

・　マウスピースの１．３㎝のところを、口に。

・　下の歯に下唇をしっかりかぶせる。

・　上の歯が下の歯より前に行かないように注意する。

・　下顎は左右下に引いてしっかり固定する。

・　マウスピースのみでＣの音が安定して出るように。（タル付きではＦis）

・　足は腹に力が入るように、前後に固定することも良い。

＜サックス＞

・　リードの高さはクラリネットと同様。

・　アルト…マウスピースのみでＡｂ 、ネック付きで低いＡｂ

・　テナー…マウスピースのみでＧ、ネック付きでＥ

・　バリトン…マウスピースのみでＥｂ 、ネック付きＥｂ

・　サックスは鳴りやすい楽器のため音色やビブラート等は特によく研究すること。
・　高音域では、ピッチが非常に上がる楽器なので、右手の小指でどこかをふさぐと下がる。演奏する楽器や奏者の特性があるので、チューナー等で、それぞれの音について見つける。できれば四分音符以上はその指使いとしたい。中学生でも速いパッセージは無理としても、全音符等伸ばす音はそれを指使いとする。

＜金管＞

・　マウスピースは、上唇が３／５、下唇が２／５を基準に（ホルンは逆）。
・　唇が薄い生徒はＴｐやＨｎ、厚い生徒は中低音の楽器。ＴｐやＨｎ等は歯並びも考慮されたい。
・　ＴｐやＴｂ等ストレートな楽器は体に真直ぐ構え、楽器は床に平行より少し下げた位置で。（初め慣れるまでは、いつも姿勢に気をつける。）
・　ＥｕｐやＴｕｂはマウスピースは体に真直ぐで、ベルを体の右の方に位置するよう構える。
・　ホルンは首を少し左に向け、マウスピースは顔に垂直に、体のねじれが生じないように構える。
・　ホルンの右手の働きは、①音色の変化②音程の調節（基本的に右手をベルに入れれば低くなり、抜けば高くなる。）③ゲストップ音（ホルン独特の金属の音色）の操作④楽器を保つ等のがあるので平手で持たないように。（右手は少し“く”の逆の形をつくり親指を人差し指に自然にあて、ベルの内側の上の方に親指・人差し指をあてる感じ）
・　高い音の時は、息の量を多く、息のスピードを強くする、アパチュア（唇の隙間）を小さくする。低い音は息のスピードをゆっくり、アパチュアを大きめにする。
・　タンキングについては、次を参考に。

やわらかい発音	するどい発音
高音域…ｄｅｅ	高音域…ｔｉｉ
中音域…ｄｏ	中音域…ｔｗｏ
低音域…ｄａａ	低音域…ｔａａ

・　チューニングについて

ホルンを除いて実音Ｂｂ で良いが、ＦやＣ、Ａ等もチューニングする癖を。特にチューニングの主管意外の第１～３バルブの調整管も定期的に調整しておくように。

ホルンはＦやＣで、Ｂｂ やＣ、Ｇ、Ｅも定期的に第１～３の調整管で調整すること（Ｗホルンは主管とＦのチューニング管、Ｂｂ のチューニング管のそれぞれのバランスに気を配ること。Ｂｂ シングルも基本的にはＦ管同様、開放管で）

＜管楽器の呼吸法とイスの位置＞

・　腹式呼吸が大切といわれる。練習には上向きに寝転んでの呼吸でその感じをつかむ。肩の力を抜き、腹と腰の上部がしっかり膨らむ様に。良い響きのある音には息の圧力が大切。
・　日頃の練習では立奏によるロングトーンが有効。
・　イスに葉１／３ぐらいに軽く座るのが望ましい。
・　フルートやホルンは体は指揮者の方に向かずに座り、首か指揮者の方に向くように

した方が体のねじれが生じなく自然になると考える。イスの向きに対して少し右（奏者として）にずれて座ることをすすめる。（奏者が、指揮者から見て、左がわに位置する場合）

＜打楽器について＞

打楽器の質や調整の度合いがストレートに出てくるので注意が必要。つまり全体の中で管楽器とのバランスと曲想にあった演奏方法など常に研究する。

・　Ｐｅｒは一人一パート非常に大切で目立つ。
・　奏者に合った楽器の高さ位置に気をつける。
・　演奏の姿勢は少し前かがみで、棒立ちは良くない。
・　手首、肘、肩のリズミカルな動きとしなやかさが大切。
・　同じ楽器、同じマレットでも叩き方で音色に違いが生じる。決して押え付けた叩き方はしないように。
・　管楽器とのバランスに常に配慮を。（指揮者の指示に細心の注意。演奏を打楽器群がこわしている団体がまだまだ見らる。６０人編成でも２０人編成でもスネアドラムは一台、Ｔｉｍｐも１セットである。）
・　演奏曲の練習よりＰｅｒ独自の基礎練習を毎日行う。

★　Ｐｅｒの練習は必ず教則本で。（技術指導のビデオなども参考に）

★　Ｐｅｒにはチューニングが必要。技術や表現がありながら、ロッドの締め方などの調整不備の演奏はよく見かけることは非常に残念。

・ＳＤの場合、ヘッドはＧ、Ａの音で、裏皮は少し高めにするとクリアーな音が得られ、低くすると深みのある音色となる。
・　ＢＤでは、ある音にチューニングするより、好みの音にチューニングする。打面の裏側を低くすれば響きのある音、高くすればマーチ等に適する音となる。裏面を低くしておいて、打面をミュートするなどをすることが現実的。また夏と冬の気温によるヘッドの張り具合の違いにも注意し、定期的に調整する必要がある。）

★姿勢や奏法について

・　Ｃ．Ｃｙｍには、高音と低音の２枚一組となっており、左手に低音、右手は高音のものを持って演奏する。左手のものの３㎝のところに、右手のものの先をあて、瞬時に全体を合わせる。（シンバルは平行に合わせることはない、空気が逃げられない場合、響きの無い音になる。）
・　Ｘｙｌｏの打点は、左手のマレットの先は真ん中より上の方、右手は下の方を叩く。（右、左がぶつかることをなくすため）演奏時の立ち位置は、Ｘｙｌｏに平行に立つのではなく、少し右回りの方向に立つ。演奏時は、左右の足を、高音を奏する場合は、右足を、低音では左足をずらして身体をスライドさせる。打点は、鍵盤が固定されている場所は叩かないこと、早い演奏では、黒鍵の固定場所より下の方を叩くことも可。（固定場所をはずせば、音色はそれほど変わらない。）
・　Ｔｉｍｐの打点は、リムから１０～１５㎝のところ。立ち位置は、ＬとＭの２台を正面に、ＬとＬＬには、身体を左旋回して、尚打点が合うように、ＬＬの位置をとる。Ｓについても同様に行います。チューニングはロッドで調整しておき、ゲージのチューニングは、低音から高音へと行います。ロールについては、１拍六連符でなだらか

に奏する。ロールの後の決めの四分音符は、ロールの最後の１拍を何打点か決めておき、決めの四分音符が低い場合が多く、ロールを左から入って、決めを左手で打つとよい。

★　演奏曲に合った打楽器のサイズ、チューニング、使用するマレットの種類を研究すること。（軟らかめか硬めか、Ｘｙｌｏではプラスチックのもの、ＶｉｂやＭａｒｍｂでは糸巻きのものを使用。金属マレットはＧｌｏのみに使用。）叩く場所、叩き方なども曲想に応じて研究すること。指揮者の細かな指示を自分で解釈し、打楽器の様々な表現を研究することが重要。

★　演奏時は、頭と体でリズムを感じ、手首や肘など全身を使って豊かに表現すること。顔の表情も重要です。（打楽器の表情や表現に乏しい団体が多く残念。）繊細なリズムやダイナミックなリズムは特に気をつけたい。

《各楽器の手入れについて》

各部定期的に楽器の掃除の日を設定すること。また、演奏会の終了日の次の日や、テスト前など練習をしなくなる日にも必ず行いたい。個人や生徒任せにすることは、しっかり伝統がある団体以外は手入れをしないことと同じになる。（楽器の手入れが悪い団体・個人は音楽に関しても良くありません。）但し、演奏会前日のやり過ぎの手入れは、キーなどの調整がくるう場合があるのですすめない。

手入れ用品や掃除用具は各自にきちんと持つ。

＜Ｆｌ＞

・　必要用具…ガーゼ（掃除棒用）、掃除棒、ガーゼ（表面掃除用）、キーオイル、ポリシングクロス

・　練習の終わりはもちろんのこと、合間にも掃除棒とガーゼで管内を拭きとる。

・　表面の汚れは、キーに負担をかけないように、ポリシングクロスで。

・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｏｂ＞

・　必要用具…大羽根（又はスワブ）、ガーゼ、クリーニングペーパー、ポリシングクロス、キーオイル

・　演奏の終わりだけでなく合間にも、まめに大羽根を通すこと。

・　タンポやトーンホールの水分は、クリーニングペーパーで。

・　２ケ月に一度はキーオイルを。

・　温度の急変は楽器がわれる原因、キーの調整も楽器店で。

＜Ｃｌ＞

・　必要用具…カーゼ、クリーニングペーパー、スワブ、ポリシングクロス、キーオイル

・　演奏の終わりや合間にも、スワブを通す。

・　タンポはクリーニングペーパーで。

・　ちょっとした汚れはガーゼで、表面はポリシングペーパーで。

・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｓｘ＞

・　必要用具…ガーゼ、スワブ、サックスクリーニングスワブ、ポリシングクロス、キーオイル
・　マウスピースやネックはスワブで。
・　本体は、サックスクリーニングスワブで。
・　表面は、ポリシングクロスで。
・　２ケ月に一度はキーオイルを。

＜Ｔｐ、Ｅｕｐ、Ｔｕｂ＞

・　必要用具…マウスピースブラシ、掃除棒、バルブオイル、スライドグリス、ガーゼ、ポリシングクロス
・　基本的には練習前にはバルブオイルをまんべんなく塗る。
・　練習終了後、表面をしっかりポリシングクロスできれいに拭くこと。
・　ときどきマウスピースをマウスピースブラシで。
・　１ケ月に一度は、調整管等をガーゼ・掃除棒で掃除をし、スライドグリスを塗る。粘りのあり過ぎる管はバルブオイルをつけてガーゼでよく拭きとりスライドグリスを塗るとよい。（グリスがピストン内部に付かないように、ぬり方は考えること。）
・　学期に一度は、ピストン部の上下のねじをすべてはずし掃除する。（バネを無くしたり、ねじを痛めることのないように。）
・　ねじが堅い場合は、木槌で軽くく叩くとよい。

＜Ｈｎ＞

・　必要用具…ガーゼ、ポリシングクロス、マウスピースブラシ、ロータリーオイル、スライドグリス
・　唾は主管を抜いて。また、マウスピースをはずし吹く逆方向に回して唾を捨てる。
・　練習後は、管全体をポリシングクロスでよく拭く。（特にベル内側）
・　２日に一回はロータリーオイルをさす。バルブスライドを抜き、ロータリー部を下にし、それぞれ１～２滴下する。ロータリーキャップをはずし接触部や裏側にも。
・　各スライドはときどき抜いて、ガーゼでよく拭いてからスライドグリスを塗る。
・　学期に一度は、掃除棒などで管内全体を掃除する。

＜Ｔｂ＞

・　必要用具…ガーセ（短い物と長い物）、ポリシングクロス、スライドクリーム、スライドグリス、ウォータースプレー、掃除棒
・　練習終了後、唾をよく抜き、管全体をポリシングクロスでよく拭く。
・　月１～２回はスライド部の内管を軟らかいガーゼでよく拭きとり、スライドクリーム（ほんの少量）を塗り、よくのばす。ウォータースプレーで水をかける。外管は掃除棒とガーゼで内側を拭きとる。内管をていねいに外管を入れ、スムーズに動かす。
　チューニングスライドは、ときどきよく拭きとって、スライドグリスを塗る。（管の中も月に一度は掃除棒で掃除をする。）

＜Ｐｅｒ＞

・　必要用具…ガーゼ、ポリシングクロス、バルブオイル
・　使用後は必ずクロスで拭く。特に金属部はオイルを少し付けたクロス等でていねいに拭く。シンバル類、グロッケン等の錆びは音質に微妙に影響する。

・　ヘッドは最低２年ぐらいで取替えること。（伸びきったヘッドは響きが無い）使用後のＴｉｍｐはペダルを一番ゆるめた状態にしておく。

＜まとめ＞

学校に所属する吹奏楽部は、課外活動といっても学校教育の一環です。心から歓べる“部活”をしたいものです。生徒の皆さん“部活”としての吹奏楽から“音楽”としての吹奏楽をしましょうね。